

ハイブリッド・マルチクラウドの 5つのコスト最適化戦略

IT業界は、テクノロジーがますます複雑化してデータは急速に倍増する一方、企業の予算が厳しくなっているという状況に直面しています。ガートナー社は、2025年までに、IT支出の半分以上がクラウド関連のカテゴリーに移行すると予測しています。¹ビジネスがハイブリッド・マルチクラウドテクノロジーで自社の未来を構築していく中、コスト最適化戦略は不況期の舵取りを支えることができます。

ITコスト最適化戦略の多くは、ハイパーコンバージドインフラストラクチャーなどのモダナイズされたITシステムや新しいクラウド機能を中心に構築されています。これは、データセンターを統合・仮想化することで、従来型データセンターと比べて少ない量のハードウェアと容量による拡張性を実現します。モダナイズされたデータセンターは、ハイブリッド・マルチクラウド運用へと容易に進化させることができ、アプリケーションとデータをオンプレミスまたは別のパブリッククラウドに配置して特定のビジネスニーズに合わせる事が可能です。統合データサービス、自動化、およびサービスとしてのインフラストラクチャー提供品に目を向けることで、ITチームは複雑性と運用コストに対処しながら、新たなイノベーションを活用しやすくなります。

“ガートナー社は、2025年までにIT支出の半分以上がクラウド関連のカテゴリーに移行すると予測。”

マルチクラウドのコスト最適化とは？

マルチクラウド環境で運用するには、クラウドサービスや複数の必須APIなどのために一定のコストがかかります。Mediumでホスティングされたウォルマート・グローバル・テックのブログ記事において、ソフトウェアエンジニアのRupesh Patel氏は「企業はクラウドサービスに膨大なお金を投じているが、果たして企業は賢く最適な形でお金を使っているのだろうか」という大きな疑問が残っている」と提起しています。

マルチクラウドのコスト最適化とは、こうしたコストを抑えたり、組織が支出額に応じてより多くの投資利益率を確実に達成できるようにするための慣行や戦略を指します。「本当の悩みは、毎月の請求が届き始める頃に顕在化する」と述べるPatel氏の説明は、請求書の金額を抑える対策が必要であることを示しています。

コスト最適化対策を完備していない組織がマルチクラウド運用を行った場合、互換性の問題、柔軟性の欠如、および準最適なデータ保護機能など、いずれも支出の多様化不足を原因とした困難に直面する可能性があります。こうした場合でも、マルチクラウド戦略は徐々に拡張性を高めて、バンダーロックインの状況を抑えることができます。

¹2022年2月9日ガートナー社プレスリリース「主要な市場セグメントにおけるエンタープライズIT支出の半分以上は2025年までにクラウドに移行するとガートナー社が発表」

予算が厳しい時でもITチームを支えるインフラストラクチャーイノベーション

1. ハイパーコンバージドインフラストラクチャー

ハイパーコンバージドインフラストラクチャー (HCI) とは、物理サーバーおよびストレージをネットワークと組み合わせることで、レガシーインフラストラクチャーによく見られる特定の悩みを排除するソフトウェアです。これによって、オンプレミスのデータセンターをよりシームレスにパブリッククラウドと統合でき、ハイブリッド・マルチクラウド環境を構築できます。

HCIは、異種のITコンポーネントの購入・管理に伴う事前コストを排除することで、ITコスト削減の中心的役割を担うことができます。

Nutanix Enterprise Cloud Indexは、世界中のIT意思決定者を対象に自社のITインフラストラクチャーとクラウド関連の課題や知見について調査します。2023年版ECIレポートにおいて、回答者の93%は2年以内にハイパーコンバージドインフラストラクチャーを完備または展開する意図を明らかにしています。

2. 統合データサービス

マルチクラウドのコスト最適化を促進できるもう1つの手段が、クラウド戦略への統合データサービスの導入です。これによって、クラウドプラットフォームユーザーはKubernetesアプリケーションとクロスクラウドのデータモビリティ向けデータサービスを含め、データ管理ケイパビリティをオンプレミス、クラウド、およびエッジで統合できるようになります。

Nutanixのプロダクト管理SVPを務めるThomas Cornely氏は、データサービスの統合に関して「ITチームは、ガバナンスとセキュリティポリシーを均一に適用しながら、開発者がセルフサービス型データサービスを利用できるようにする方法を見つけなくてはならない」と述べています。

統合データサービスの概念は、マルチクラウド設定における共通の運用レイヤーに関する特定のニーズに対処するものです。複数のクラウドにわたって単一のレイヤーが拡張されるため、管理者はインフラストラクチャー全体の包括的な可視性とコントロールを得ることができます。これによって、セキュリティ、リソース使用状況に関する知見、そしてITインフラストラクチャーコストの制御が改善されます。

3. サービスとしてのハイブリッド・マルチクラウドプラットフォーム

サービスとしてのプラットフォームを選択した場合、企業は自社クラウドプラットフォームの保守および必要なインフラストラクチャー構築の初期費用の支払いという負担から解放されます。これを選択した場合は従量制の経費を伴う一方で、その潜在的なメリットは適切な戦略を配備したビジネスのコスト最適化要件を充足できます。

自社アプリケーションを構築する、または自社ビジネスを運用するために新しいアプリケーションをオンボーディングする企業がオウンドデータセンターおよび異なるクラウドプラットフォームをまたぐ管理方法を探した結果、新たな機会が見つかっています。開発者にツールを与えると共に、新しいアプリケーションを構築、信用、および運用できる場所を提供できる力は不可欠です。クラウド環境内およびクラウド環境向けにクラウドネイティブアプリケーションを構築するという認識は、クラウドサービスプロバイダーに限った話ではありません。新しいソフトウェアの出現により、ITリーダーは「インフラストラクチャーに依存しない」システムおよびこれにほぼ近いものを開発者に提供できるようになったため、アプリケーションとデータを異なるクラウド活用型データセンターおよびサービスをまたいで運用できるようになりました。

また、サービスとしてのプラットフォーム (PaaS) アプローチの下では、クラウドリソースの過剰プロビジョニングという一般的なマルチクラウドのコスト最適化問題にも対処できます。クラウドコンピューティングによって、組織は変化の激しい需要の状況に基づき現在のリソースプールを拡張・縮小できるインフラストラクチャーの弾力性を実現できるようになりました。そして、サービスソリューションとしてのプラットフォームは、特に弾力性に優れています。このアプローチの下、企業は急成長を遂げている業界に遅れずについていくことができます。

4. Cloud-to-Edge (クラウドからエッジ) の管理

ハイブリッド・マルチクラウドにおけるイノベーションは、エッジコンピューティングをもエンパワーメントしています。クラウドサービスとリモートオフィスに接続する集中型データセンター運用は、レイテンシーとコスト面での課題をビジネスにもたらします。データセンターを複製し、同じIT環境を遠隔地で運用することで、特にセキュリティ、アプリケーションの更新、その他の機能に関して、協調的で統一された方法で実行できる効率を高めることができます。

Nutanix Centralについて、Cornerly氏は次のように述べています。「当社はパブリッククラウド、オンプレミス、ホステッド、およびエッジ環境をまたいだ一貫性ある管理を含めるため、ハイブリッド・マルチクラウドプラットフォームを拡張して本当にユニバーサルなクラウド運用モデルを提供します。」

分散型マルチクラウド環境において、基盤となるアーキテクチャーはコンプライアンス、パフォーマンス、およびエッジ展開を促進します。集中型のCloud-to-Edge (クラウドからエッジ) 管理ソリューションは、サイロを壊すシームレスかつユニバーサルなクラウド運用モデルを提供することで、この環境におけるマルチクラウドのコスト最適化をサポートします。

ガートナー社によると、多くの組織が主権、レイテンシー、およびネットワーク帯域幅要件を満たす自社のクラウド移行戦略の一環として、分散型クラウドモデルを評価しているといえます。エッジを導入したモデルを選択するにはコスト面の課題を考慮しなくてはなりません。クラウドからエッジまでの適切な管理ツールはこうした課題に正面から取り組み、コストを望ましい水準に保つことができます。

5. コストガバナンス

一般的な用語としてのコストガバナンスとは、支出に関する可視性の保持、自動化などの手段を通じたコスト削減、そして観測可能な消費パターンに基づいたリソース割り当てによる経費のコントロールを目指す、組織のイニシアティブを指します。これはまた、ビジネスリーダーがプライベート、パブリック、およびマルチクラウドレベルでクラウドコストを最適化するために実施できるスマートな戦略でもあります。

Nutanixクラウドマネージャー (NCM) のコストガバナンスツールは、マルチクラウドのコスト最適化を簡素化できるプラットフォームベースのソリューションです。自社のコストガバナンス戦略にこの種のソフトウェアソリューションを採用した場合、従量制によるTCO計算、クラウド消費レポートの自動生成、そしてリソースライトサイジングの自動化というメリットが得られます。

「リソース使用状況およびコンフィグレーションの定期的な監視、未使用リソースの整理、そして使われなくなったストレージボリュームの削除は不可欠である」とPatel氏はウォルマート・グローバル・テックで指摘しています。監視ならびに監視の結果としてビジネスが取る対策は、総合的なコストガバナンスとコスト最適化において重大なプロセスとなります。

“ガートナー社によると、多くの組織が主権、レイテンシー、およびネットワーク帯域幅要件を満たす自社のクラウド移行戦略の一環として、分散型クラウドモデルを評価しているといえます。”

マルチクラウドのコスト最適化機能を備えたプラットフォーム

Patel氏は、特定のニーズを満たす正しい適性を確保するには、異なるクラウドサービスプロバイダーの中から正しいサービスを選ぶことが重要だと説明しています。

「この分野には沢山の競合他社が存在する」と彼は言います。「ユースケースと特定の技術要件を把握することが不可欠だ。さまざまなクラウドプロバイダーが概ね類似したマネージドサービスを提供しているが、コスト、セキュリティ、コンプライアンス、ガバナンスなどの面でそれぞれのサービスを評価しなくてはならない。」

マルチクラウドのコスト最適化の必要性は、未曾有かつ変化の激しい複雑性によって特徴付けられる、業界の情勢に由来しています。この場合、最もスマートな戦略とは、表面下のあらゆる複雑なコンポーネントからユーザーを引き離しながら、シンプルさを実現することになります。

ハイブリッド・マルチクラウドのコスト最適化戦略の詳細については、次の記事をご覧ください：<https://www.nutanix.com/jp/products/cloud-manager>

この記事は、The Forecast by Nutanixに最初に掲載されました。私たちの未来を形作る人々や動向に関するニュースに興味のある方は、以下をご覧ください：[The Forecast by Nutanix](#)

NUTANIX

contact-jp@nutanix.com | www.nutanix.com/jp | [@nutanixjapan](https://twitter.com/nutanixjapan)

©2024 Nutanix, Inc. All rights reserved. 本文書に記載された、Nutanix、Nutanixのロゴ、およびNutanixのその他全ての製品、提供機能、およびサービス名は、米国およびその他の国においてNutanix, Inc.の登録商標または商標となります。本文書に記載された、その他のブランド名は、識別目的のみに使用されており、それぞれの所有者の商標となります。

HMC-FiveHybridMulticloudCostOptimizationStrategies-Infobrief-v3_ja-JP_05172024